


6 林 業

項 目	作 業 内 容																									
<p>(1) 原木の選定</p> <p>(2) 原木の伐採</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <p>シイタケの原木の選定、原木の伐採、ほだ場の選定、ほだ起こし</p> <p>10月21日高松地方気象台発表の1か月予報によると、向こう1か月の天気は、数日の周期で変わる見込みで、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みとなっていることから、原木の伐採等作業を実施するためには、毎日発表される週間予報を確認し行なう。</p> <p>シイタケ原木の最適樹種は、クヌギ、コナラであるが、カシ類、シイ類、シデ類、アベマキも適樹種である。</p> <p>また、原木に適する樹齢は、クヌギ、コナラが10～25年生、カシ類、シイ類、シデ類が30年生以上である。</p> <p>シイタケ原木の伐採適期は、クヌギでは3分黄葉期で、晴天が数日続いている時がよい。この時期は、樹液の流れが少なくなり樹皮が剥げにくくなる。一方、まだ葉の蒸散が行われているため、伐採後の「葉枯らし」により、葉の蒸散作用で辺材部の水分が抜けて材組織の枯死が促進し、シイタケ菌糸が蔓延するのに適した原木状態となる(表1)。</p> <p>この「葉枯らし」の期間は1～2ヶ月ぐらいが適当であるが、伐採地の地形や環境、樹種、原木の大きさ、気象条件などを考慮して決める。</p> <p>伐採時の注意事項は次のとおり(写真1)。</p> <p>ア 安全作業を心がけ、ロープ等で伐採方向を定める。</p> <p>イ 木を伐り倒す時、根元に割れを作らない。</p> <p>ウ 伐採した原木の伐り口を切り株や石などの上に乗せ、伐り口をできるだけ地面につけない。</p> <p>表1 原木の伐採適期</p> <table border="1" data-bbox="438 1478 1372 1792"> <thead> <tr> <th data-bbox="438 1478 821 1579">樹 種 伐採時期</th> <th data-bbox="821 1478 949 1579">クヌギ</th> <th data-bbox="949 1478 1077 1579">コナラ</th> <th data-bbox="1077 1478 1220 1579">カシ類 シイ類</th> <th data-bbox="1220 1478 1372 1579">シデ類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="438 1579 821 1635">黄葉初期から3分黄葉</td> <td data-bbox="821 1579 949 1635"></td> <td data-bbox="949 1579 1077 1635"></td> <td data-bbox="1077 1579 1220 1635"></td> <td data-bbox="1220 1579 1372 1635"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="438 1635 821 1691">4分黄葉から7分黄葉</td> <td data-bbox="821 1635 949 1691"></td> <td data-bbox="949 1635 1077 1691"></td> <td data-bbox="1077 1635 1220 1691"></td> <td data-bbox="1220 1635 1372 1691"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="438 1691 821 1747">寒期(1月～2月上旬)</td> <td data-bbox="821 1691 949 1747"></td> <td data-bbox="949 1691 1077 1747"></td> <td data-bbox="1077 1691 1220 1747"></td> <td data-bbox="1220 1691 1372 1747"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="438 1747 821 1792">春期(2月中～3月上旬)</td> <td data-bbox="821 1747 949 1792"></td> <td data-bbox="949 1747 1077 1792"></td> <td data-bbox="1077 1747 1220 1792"></td> <td data-bbox="1220 1747 1372 1792"></td> </tr> </tbody> </table> <p>この表は標準であって、場所、その年の気象条件などで、若干差が生じる場合がある。 …最適期 …適期</p> <p>老齢木は黄葉初期に伐採する。</p>	樹 種 伐採時期	クヌギ	コナラ	カシ類 シイ類	シデ類	黄葉初期から3分黄葉					4分黄葉から7分黄葉					寒期(1月～2月上旬)					春期(2月中～3月上旬)				
樹 種 伐採時期	クヌギ	コナラ	カシ類 シイ類	シデ類																						
黄葉初期から3分黄葉																										
4分黄葉から7分黄葉																										
寒期(1月～2月上旬)																										
春期(2月中～3月上旬)																										

項 目	作 業 内 容
	<p>エ 葉枯らしなどの条件をよくするため、できるだけ上向きに伐採する。</p> <p>オ 伐採の時、すでに害菌や穿孔虫などの侵入を受けている被害部は取り除く。</p> 
写真 1	原木の伐採・葉枯らしの状況
( 3 ) ほだ場の選 定	<p>ほだ場と品種が合っていないと品種の特性が発揮しにくい。特に、低温系品種はこの傾向が強いので、なるべく南から東南向きで日当たりが良く、日中と夜間の温度較差が大きい場所をほだ場に選定する。</p>
( 4 ) ほだ起こし	<p>シイタケ菌糸が十分に蔓延したほだ木を、シイタケの発生環境に適した林内のほだ場に移し、シイタケが変形せずに生長し、採取しやすいようにほだ木を組み変えることを「ほだ起こし」という。ほだ起こしは最低気温が数日間にわたり、使用品種の芽切り温度以下になってから実施する。</p> <p>ほだ起こし時の注意事項は次のとおり。</p> <p>ア シイタケ菌糸の蔓延したほだ木は、原木にくらべて樹皮が傷付き易くなっている。このため、作業中に樹皮部が損傷すると、損傷部やその周辺部が乾燥してシイタケ菌が衰弱したり死滅し、その部分から害菌のトリコデルマなどが侵入し大きな被害を受けることがあるので、取扱いに注意する。</p> <p>イ 作業中、ほだ木に直射日光が当たると日射障害を起こし、シイタケ菌糸は衰弱して害菌の侵入を受け易くなるので、特に裸地伏せ地での作業は笠木を一度に取り除かないなど、直射日光が当たらないよう注意する。</p> <p>ウ ほだ木を、ほだ場まで運び一箇所に積んだまましばらく置く場合が多いが、その間は直射日光が当たらないようほだ木を保護する。</p> <p>エ ほだ木の組み方は、ヨロイ、ムカデ、合掌等の方法があるが、一般には合掌が良い。</p> <p>オ ほだ木は、品種別、太さ別、樹種別に組んでおくと、発生操作、採取・選別などの作業効率が良い。</p>